

201 回花のお江戸を歩く会

緑陰&清流&寺町散歩道

「永福寺町～大宮八幡宮～和田堀公園」

＜散歩道の案内＞

201 回散歩道は杉並区を歩きます。杉並区の地名由来は、江戸の初期に青梅街道沿いの領地の境界に杉の並木を植えたことに始まります。

この地は奈良時代以降、武蔵国府の府中から豊島郡や下総国に繋がる古道が通っていました。江戸時代には甲州街道高井戸宿を中心に発展し、神田川・善福寺川など豊かな水環境にも恵まれ江戸の近郊農村として、江戸市中への野菜の供給地として重要な役割を果たしてきました。

また、関東大震災以降は東京市の震災復興計画に寄り和田堀廟所を中心に築地本願寺など都心の寺々がこの地に移転し、環境の良さと相まって「寺町」の雰囲気醸成される地域に変身してきました。

今回は、神田川や玉川上水、善福寺川に点在する鎌倉時代・江戸時代の名刹・古刹を訪ねつつ緑陰の涼しさが魅力の和田堀公園まで足を伸ばします。今年前半最後のオリジナルな江戸歴史散歩を存分に堪能して鋭気を養いましょう。

＜散歩道の順路＞

京王線「明大前駅」→世田区松原の寺町→甲州街道→塩硝蔵地跡→和田堀廟所（樋口一葉菩提寺）→杉並区永福の寺町→神田川永福橋→永福稲荷神社→永福神社→ランチ（永福駅周辺）→井の頭通り→龍光寺→熊野神社→貴船神社→大円寺（薩摩藩菩提寺）→鞍掛けの松（源義家ゆかり）→大宮八幡宮（源頼義ゆかり）→都立和田堀公園（休息）→成宗白山神社→松の木遺跡→善福寺川大宮橋→杉並区郷土資料館（100 円）→荒玉水道道路→理性寺→京王井の頭線「西永福駅」解散

＜個別ガイド＞

① 世田区松原の寺町

烏山の寺町同様、大正 12 年の関東大震災後に移ってきた寺で構成されています。

寺は、浄徳寺・正法寺・延重寺・常念寺・勝林寺の 5 つです。

◆浄徳寺＝浄徳寺は、江戸時代初期一ツ木村に顕如上人開山、開基常陸国畑田村の領主了善として創建したと伝えられます。後、築地本願寺内寺町に移転、昭和 4 年当地へ移転しました。

◆正法寺＝浄土真宗本願寺派。元和 2 年（1616）京都伏見白川郷にある伏見山白川寺の住職某の次男が浜町に創建、明暦 3 年築地本願寺内寺町へ移転、昭和 4 年当地へ移転。

◆延重寺＝寛永 21 年（1644）に江戸浅草の浜町御坊中に創建しました。築地本願寺と共に

築地に移転、関東大震災に罹災後、昭和4年当地へ移転た。

◆常念寺＝江戸時代初期芝に創建。後築地本願寺内寺町へ移転、昭和4年当地へ移転。

◆勝林寺＝慶長1年(1596)の創建。明暦の大火後に浜町御坊中から築地に移転、関東大震災に罹災後、昭和4年当地へ移転。→甲州街道

② 塩硝蔵地跡

現在、明治大学和泉校舎と築地本願寺別院和田堀廟所のある広大な敷地(約62,000m²)には、かつて幕府の塩硝蔵が置かれていた。官軍が江戸に入ると塩硝蔵は接收され、弾薬は上野彰義隊や奥州諸藩の鎮圧に威力を発揮した。

③ 和田堀廟所(樋口一葉菩提寺)

大正12年の関東大震災で築地本願寺が罹災し、再建にあたって境内にあった多数の墓地を移転する必要にせまられました。当時の大蔵省所管だった陸軍省火薬庫跡地約一万一千坪の払い下げをうけ、築地から仮本堂として使用されていた建物などを移築して和田堀廟所が設立されました。

④ 杉並区永福の寺町

◆真教寺＝親鸞室の玉日姫やその父九条兼実の坐像があります。築地から移転した浄土真宗(本願寺派)寺院です。

◆託法寺＝大正期に四谷から移転した浄土真宗(大谷派)寺院です。

◆善照寺＝もとは小田原にありましたが、豊臣秀吉の小田原攻めで罹災したといわれています。浄土真宗(本願寺派)の移転寺院です。

◆浄見寺＝狂歌師の中井董堂の墓があります。築地から移転した浄土真宗(本願寺派)寺院です。

◆法照寺＝歌舞伎役者の市川団蔵家歴代の墓があります。築地から移転した浄土真宗(本願寺派)寺院で、かつては築地本願寺の子院でした。

◆栖願寺(せいがんじ)＝江戸期に、住職が将軍に拝謁できる独礼の寺格が認められていた浄土宗寺院。河内国丹南藩主の高木家や旗本家の墓があります。麴町から移転。

◆永昌寺＝幕末の兵学者平山兵原の墓碑があります。四谷からの移転の際に下高井戸村の永泉寺を合併した曹洞宗寺院です。

◆龍泉寺＝明治末期に、四谷から移転してきた曹洞宗寺院です。→神田川永福橋

⑤ 永福稲荷神社

享祿三年(1530年)に京都伏見稲荷大社のご分霊を勧請したのが始まりとされております。明治十一年に町全体を守るように西向きに建て直されたものです。赤い柱と白い壁のいかにもお稲荷様らしい雰囲気を持った社殿です。

⑥ 永福寺

杉並区永福の地名の由来は、永福寺にちなんでいます。永福寺は、大永2年(1523)に創建された古寺です。永福寺は北条氏家臣ゆかりの所領でしたが、天正18年(1590)に、北条氏家臣の安藤式部が主従7人で相模大住郡からこの寺を頼って移り住み、土地を開拓して

以来、この一帯を永福寺村と呼ぶ様になったそうです。環境の良い静かな住宅地で寺院も多く、浄土宗栖岸院には番町皿屋敷でおなじみのお菊さんの墓や、老中安藤信友、信正などの墓があり、築地本願寺別院和田堀廟所には、樋口一葉や九条武子などの墓があります

→ランチ（永福駅周辺）

⑦ 龍光寺

泉涌山医王院と号する真言宗室生寺派の寺院です。本尊は薬師如来立像で、杉並区内では珍しい平安時代末期（12世紀前半）に造立されたものです。

開創は、明治10年の書上げによると承安2年（1172）とされ、開山は寺伝によれば龍観和尚（明応2年1493年寂）と伝えられています。

山号の泉涌は、和泉の地名の由来ともなった貴船神社（和泉3-22）の泉に、院号の医王は、本尊の薬師如来に因むものといわれています。また寺号の龍光は当時のすぐ下を流れる神田川の源、井之頭池にすんでいた巨大な竜が、川を下ってきて、この付近で雷鳴をとどろかせ、光を放って昇天したことに由来すると伝えられています。

⑧ 熊野神社

社伝によれば、文永4年（1267年）に紀州の熊野神社の分霊を祀ったのが当神社の創建である。弘安7年（1284年）に社殿を修造し、その後北条氏綱が上杉朝興と戦い江戸城を攻略した際にも社殿を修めたと伝えられる。江戸時代には寛永16年（1639年）と元禄9年（1696年）の両度にわたって社殿の改修をおこなった。別当寺は隣接する龍光寺であった。現在の社殿は文久3年（1863年）の造営で、明治4年（1871年）に修復したもの。また、境内には徳川家光が鷹狩りの途中で休息し、その時に手植えしたと伝えられる松の大木もご神木としてある。

⑨ 貴船神社

和泉貴船神社は、文永年間（1264～75）に創建されたと伝えられます。当社境内にある”御手洗の小池”は涸れることがなかった湧水で、地名和泉の発祥といえます。

⑩ 大円寺（薩摩藩島津家菩提寺）

曹洞宗寺院の大円寺は、泉谷山と号し、慶長8年（1603）江戸赤坂溜池の辺りに徳川家康が開基となって創建しました。寛永18年（1641）伊皿子（港区三田高輪辺）へ移転、寺号を大淵寺から大円寺へ改号しています。島津家の江戸菩提寺となった他、塔頭2院も大久保科・旗本五井・松平・本多・土方の諸家中等を檀徒として栄えました。明治維新後、寺院の発展を計り明治41年当地へ移転しました。

⑪ 鞍掛けの松（源義家ゆかり）

平安時代の武将・源義家が、「奥州遠征の折、この松の枝に馬の鞍を掛けた」という伝承に由来するが、現在の松の木は代替りしたものである

⑫ 大宮八幡宮（源頼義ゆかり）

現在大宮八幡宮がある一帯は大宮遺跡とされ、東京都内で初めて方形周溝墓が発掘された地としても知られる。ここから、この神社の鎮座以前からこの一帯が聖なる地とされて

きたと推測される。

前九年の役のとき、この乱を鎮めよとの勅命をうけた鎮守府将軍・源頼義は、奥州に向かう途中、武蔵国にて空に八条の白雲が棚引いているのを見たとき、これを源氏の白旗が翻ったかのように見た頼義は「これは八幡大神の御守護のしるしである」と喜びこれを吉兆とし、乱を鎮めた暁には必ずこの地に神社を構えることを誓って、武運を祈り出陣したという。頼義は、乱を平定した後の康平6年(1063年)に、八条の白雲を見た地に石清水八幡宮の分霊を祀り、神社を創建したとされる。

天正19年(1591年)に徳川家康から社領30石を寄進された。また、結城秀康の夫人である清涼院により、社殿が造営された。江戸時代の敷地は境内を除いて60,000坪におよび、境内末社7社の他、2町離れた堀之内に別当寺の大宮寺があった。→都立和田堀公園

⑬ 宗白山神社

建の時期は不明。古墳時代の土器などが発見されており、大宮神社と同じ頃にできたのではないと言われる。地名の白幡は、源頼義が奥州征伐のおり、このあたりで空に白旗の如くたなびく雲を見て、勝利の証と慶び一社(大宮八幡)を勧請したと伝えられる。7

「成宗」とは永禄2年(1559年)の「小田原衆所領役帳」に「永福、沼袋、成宗の三カ村」との記述がある。古くからの村であった。その後、成宗村は幕府の天領となるまでは、旗本岡部忠正氏の知行地であった。

ちなみに、「杉並」の地名はこの岡部氏に由来する。江戸時代に田端・成宗両村を領していた岡部氏が、境界の目印に植えた杉の木が杉並木となり、旅人や市場に通う百姓の道中のランドマークとなった。それが杉並区の区名由来になった。

⑭ 松の木遺跡

約2万年に及ぶ舌状台地上の遺跡です。先土器時代(約2万年前)から縄文時代、弥生時代を経て、古墳時代(約1400年前)に至る複合遺跡で、複合遺跡としては区内最大級だそうです。松ノ木運動場内の松ノ木野球場脇の細い道の先にあり、古代住居跡と復元住居を見ることが出来ます。この地の歴史を教えてください。→善福寺川大宮橋→杉並

区郷土資料館(100円)→荒玉水道道路

⑮ 理性寺

承応3年(1654年)大久保忠辰・忠陰の兄弟が、両親の菩提をとむらうために創立したもので、もとは四谷の大木戸(現新宿区)にありましたが、大正2年に現在地に移りました。墓地には当山の創始者大久保忠辰・忠陰兄弟とその両親をはじめ、長唄の初代杵屋三五郎や、江戸の戯作者伊庭可笑などが眠っています。

境内の左手には大黒殿があり、中に「火伏せの大黒天」と呼ばれる高さ約12cmの木彫りの大黒天が安置されています。→京王井の頭線「西永福駅」解散